

兵庫県教育委員会 令和2年度完了報告書

1. 調査研究概要

本県では、カリキュラム・マネジメントの3つの側面を踏まえ、研究テーマa「学校の教育目標等（めざす生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現」（兵庫県立姫路北高等学校）、研究テーマb「学習の基盤となる資質・能力の育成」（兵庫県立北条高等学校）、研究テーマc「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成」（兵庫県立尼崎稲園高等学校）について、実践校3校の取組をまとめた「カリキュラム・マネジメント実践事例リーフレット」を作成した。

調査研究にあたっては、有識者を加えた「兵庫県カリキュラム・マネジメント検討会議」を設置し、事業全体の計画、実施、評価、検証の指針を得るとともに、各校にも「カリキュラム・マネジメント委員会」を設置し、検討会議の有識者を交え、各校の現状や実態に応じて調査研究を推進した。

最終年の今年度については、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、令和2年4月7日に兵庫県を含む7都道府県に緊急事態宣言が発令され、感染症対策と生徒の学びの保障の両立を図ることが大きな課題となった。そこで、校長のリーダーシップの下で、教職員の協働体制を推進していた実践校3校の機動的な取組を県下の各校に情報提供し、感染症対応のモデルとして活用した。

令和3年度については、全県立高校が参加する教務部長会や新教育課程説明会等で、作成したリーフレットを配布するとともに、実践校による研究成果発表の場を設けて、県下の各校でカリキュラム・マネジメントを推進する体制を整備する予定にしている。

【兵庫県の研究体制】

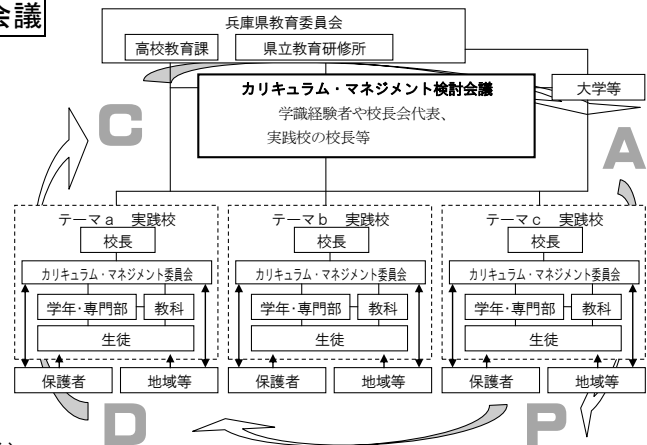
兵庫県カリキュラム・マネジメント検討会議

学識経験者や校長会代表、実践校の校長等を中心に構成し、事業全体の計画、実施、評価、検証を行う。

カリキュラム・マネジメント委員会

(各校に設置)

校長のリーダーシップの下、学識経験者も加え、校内におけるカリキュラム・マネジメントを展開する。



(カリキュラム・マネジメント検討会議の構成)

| No. | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 1 | 村川 雅弘 | 甲南女子大学教授 |
| 2 | 赤沢 早人 | 奈良教育大学教授 |
| 3 | 池田 匡史 | 兵庫教育大学助教 |
| 4 | 中野 卓哉 | 兵庫県立姫路北高等学校・校長 |
| 5 | 増田 憲 | 兵庫県立姫路北高等学校・教諭 |
| 6 | 西川 雅秀 | 兵庫県立北条高等学校・校長 |
| 7 | 阿佐 浩道 | 兵庫県立北条高等学校・教諭 |
| 8 | 中村 稔 | 兵庫県立尼崎稲園高等学校・校長 |
| 9 | 三木 康史 | 兵庫県立尼崎稲園高等学校・教諭 |
| 10 | 萩原 健吉 | 兵庫県立学校長会教育課程委員会委員長 (兵庫県立西宮高等学校長) |
| 11 | 桂 敦子 | 兵庫県教育委員会事務局高校教育課参事 |
| 12 | 神戸 剛 | 兵庫県立教育研修所高校教育研修課長 |
| 13 | 村本 由佳 | 兵庫県立教育研修所情報教育研修課長 |

※3名の学識経験者が、a b cの各テーマの担当となり、各実践校の指導・助言にあたる。

※会議の内容に応じて、外部講師を加えて検討会議を開催する。

【兵庫県の実践校】



a 兵庫県立姫路北高等学校

県下最大の定時制高校で、こころ豊かで自立する人を育てる普通科単位制の学校



b 兵庫県立北条高等学校

加西市で唯一の全日制普通科高校で、地域に愛され、信頼される学校



c 兵庫県立尼崎稲園高等学校

全日制普通科単位制高校で、柔軟な教育課程を編成し、進路希望を叶える学校

【令和2年度 COVID-19対応下でのカリキュラム・マネジメント】

| | 4月休業中の主な対応 | 5月休業中の主な対応 | 6月分散登校時の主な対応 | 6月学校再開後の主な対応 |
|------|---|---|--|--|
| 尼崎稲園 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者への連絡は、メール配信・ホームページ・ブログ・Facebookを利用 家庭の状況確認のアンケート(QRコード)を稲園コミュニティサイトで ホームページ上で課題提示や動画配信を開始 担任が電話で生徒状況を把握 CMSIによる教材配信および質問フォームの運用開始 Classroomの作成 | <ul style="list-style-type: none"> G suite for Education(Class room)とスタディサプリを使用 課題は掲示板で連絡。 質問受付サイトを作り、掲示板で受付、電話で回答 運動不足解消腕立て伏せ 生徒・保護者への連絡は、メール配信・ホームページ・ブログ・Facebook・Classroomを利用 課題提示や動画配信をClassroomへ移行 第1回いじめアンケート(健康調査)QRコードから稲園コミュニティサイトで 担任が電話で生徒状況を把握 | <ul style="list-style-type: none"> 2つに分けて日ごとに分散登校 1年次は2つに分けて隔日登校 2,3年次は年次ごとに隔日登校 45分×6時間授業実施 稲園ルール(~6/12)を策定 6/12までの2週間のうちに担任がクラス全員と面談 | <ul style="list-style-type: none"> 45分×7時間授業実施(前期はこの形で授業を展開) 場合によっては、100分授業の実施 改訂版稲園ルールの徹底(6/15~) |
| 北条 | <ul style="list-style-type: none"> 登校日:週1AMで設定→なし はなまる連絡帳で連絡 Classiを使い、連絡、課題・授業の配信、学習記録の入力 HPに課題と提出方法をUP、県教委「運動プログラム」のリンクをUP ドライブスルー提出 | <ul style="list-style-type: none"> 登校日:週1、時差で設定×2週 課題の提出:登校日、ドライブスルー提出 登校日では自主学習と面談を実施 HPで課題と提出方法をUP 特徴的な課題:2年職業インタビュー・体育(1万歩歩く)、1年情報・音楽・数学(Classi動画を見て問題を解く) Webテストの実施 | <ul style="list-style-type: none"> クラスを2つに分けて午前午後で分散登校 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が「Hojo Collection~前向きになれる言葉、集めました。~」募集 |
| 姫路北 | <ul style="list-style-type: none"> HPおよび登録制メールサービスを利用し情報発信 課題、年次通信、健康状況調査を郵送 電話による生徒、家族の健康状況等の把握に努めた | <ul style="list-style-type: none"> 登校日:週1、学年ごと 本年度履修科目すべての課題を郵送した。2週間ごとに課題の発送、郵送による回収を行なった 各年次に1台、専用の携帯電話を準備し、生徒および家族の健康状況の把握に努めた | <ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに登校する日を決めての分散登校 引き続き課題の発送、郵送による回収を継続した(全年次の授業再開まで) 家庭への電話連絡も継続的に行ない健康状態の把握に努めた | <ul style="list-style-type: none"> 6月8日より補食による給食再開 6月19日より部活動開始 生徒との面談機会を十分にとる配慮を行なった |

(実践地域における年間実施スケジュール)

| 月 | 取組内容 |
|-----|---------------------------------|
| 4月 | 指定校による休業中の学力保障の取組 |
| 5月 | ↓ |
| 6月 | 指定校による学校再開後の学力保障の取組 |
| 7月 | 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議「実践校の進捗報告」 |
| 8月 | カリキュラム・マネジメント委員会(各校) |
| 9月 | 指定校による実践研究 |
| 10月 | 指定校による実践研究 |
| 11月 | 指定校による実践研究 |
| 12月 | 報告書の作成(各校) |
| 1月 | 報告書の作成(各校) |
| 2月 | 第2回カリキュラム・マネジメント検討会議「事業全体の総合評価」 |
| 3月 | 文科省へ事業完了報告書提出 |

2. 調査研究の内容

実践校 I 【兵庫県立姫路北高等学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（めざす児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

定時制の姫路北高校の活動に焦点をあて、実際に働きながら学ぶ生徒や、卒業後すぐに社会に出る生徒たちに、どのような資質・能力を実社会が求めているのか、また、学校として生徒に「何を身につけ」、「何ができるように」するのかということについて研究した。

ア 「めざす生徒像」（教員向けアンケート）および校内研修

教員が考える「本校生徒に身につけて欲しい能力」に関するアンケート（自由記述）を実施した。アンケート用紙を配布する際に、担当者から教職員に「『生徒に○○のような能力を伸ばせば、もっとよくなるのに…』と考えてください。」と伝えることで「生徒にできて欲しいこと、できないこと」が明確化され、それ以降の研修につながった。

【アンケート結果および教員の意見】

- ・基礎学力(小・中学校レベル)の完全定着・自分の住所などを暗記し、書くことができる
- ・集団内で決めたことを協力していく態度
- ・思い込みだけで決めずに相手の話を聞く
- ・学校を休まない(授業・学校行事)
- ・周りに迷惑をかけないように考えて行動する
- ・ルールやマナーを守る
- ・初対面の人にも挨拶ができる 等

また、約100個に上る意見を4つの資質・能力（「学力」「主体性」「協調性」「社会性」）に分類し、各領域内で最も重視すべき意見を投票によって選出した。

【姫路北高校が重視する資質・能力】

- [学 力] 日常生活で困らない程度の読み書き計算
- [協調性] 相手の立場になって、物事を考えられる力
- [主体性] 自分のことは自分でやる
- [社会性] ルール・マナーを守る

イ 学校におけるグランドデザインの策定

運営にあたり、次の委員会を設置した。

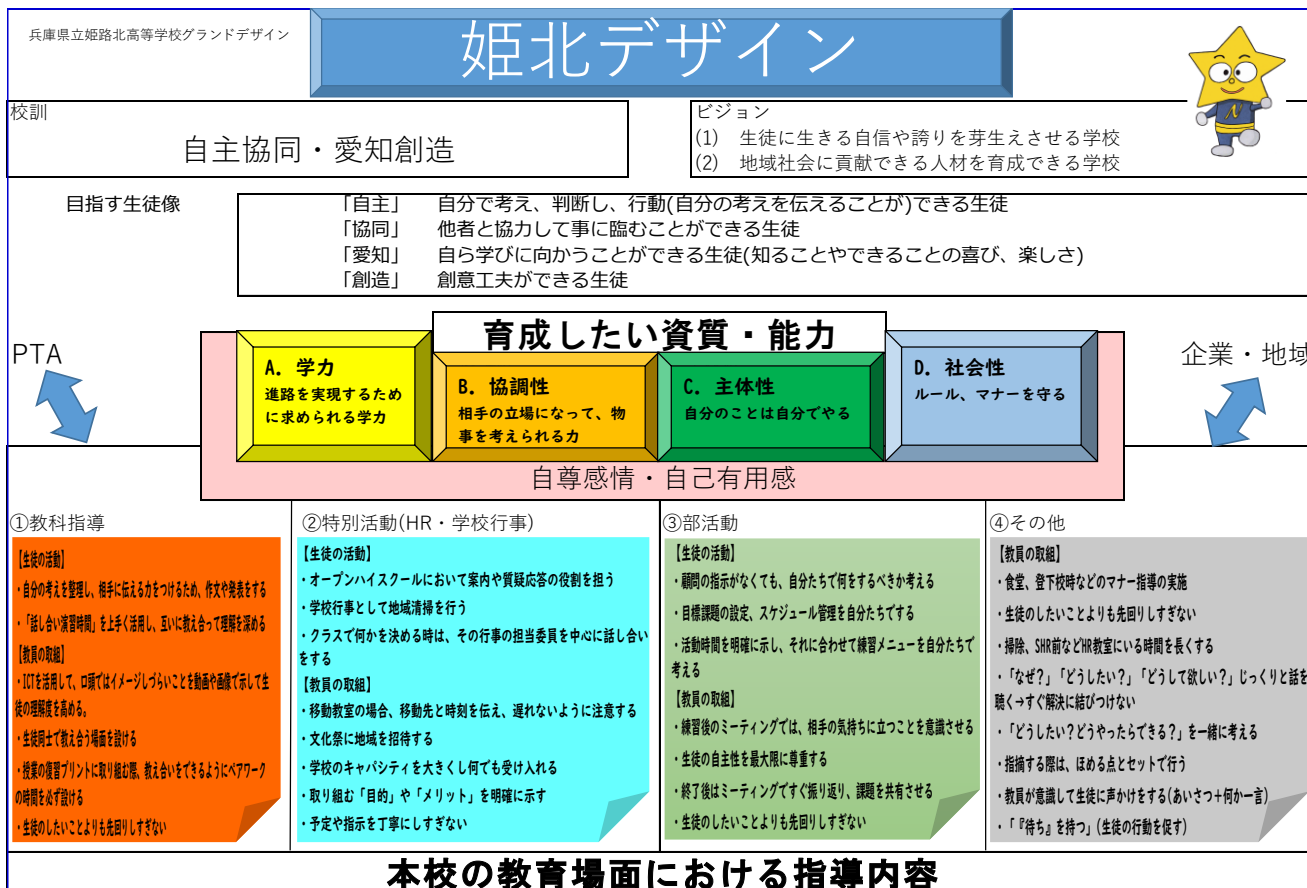
「カリキュラム・マネジメント委員会(校務運営委員会(12名)と同じメンバー)」及び管理職・カリキュラム・マネジメント担当教諭2名・主幹教諭2名で構成する「コア会議」を設置した。

(ア) グランドデザインの策定

「第1回コア会議(コアメンバー)」を実施し、グランドデザインを策定した。

「自主協同 愛知創造」の校訓や「めざす生徒像のアンケート結果」をふまえ、グランドデザインを検討した。

【姫路北高校グランドデザイン】



(イ) 実施方法

カリキュラム・マネジメントとは「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていく」ものだが、定時制である本校の現状を鑑みると、教科指導のみならず学校行事や部活動、ひいては日常的な関わり合いに至るまで学校生活そのものが本校のカリキュラムと呼ばれるべきものである。それを踏まえた上で、各教員が実際に心掛けている生徒へのアプローチ方法を校内研修にて意見交換した。

【「グランドデザインに関する教員の意見」(A:学力 B:協調性 C:主体性 D:社会性)】

[教科指導]

- ・興味をもって取り組める題材にすることで、主体的に考えさせる[A, C]
- ・知識を得るだけでなく、実際に広告を作成させている[B, C]
- ・時間(時計)を見て行動[B, C, D]

[特別活動(HR・学校行事)]

- ・完全に静かになり、スマホをしまった状態になってから話をする[B, C]
- ・移動が必要な場合は、移動先と時刻を伝え、遅れないように注意をしている[C, D]
- ・集会で前向きな声かけをする(「〇〇しろ」と命令口調で言わない)[B]

[部活動]

- ・先生がいなくても、自分たちでしっかり練習させるようにさせる[C]
- ・準備や片付けの際、自分の役割を見つけさせ、行動させ、最後感謝を伝える[B, C, D]
- ・地域活性化のために、バザーやイベントに参加し、運営に協力している[B, C, D]

[その他の場面]

- ・給食は生徒と一緒に食べる[B, D]
- ・とにかく会話を仕掛ける[B, C]
- ・校門立ち番で挨拶を積極的にする[B, C, D]

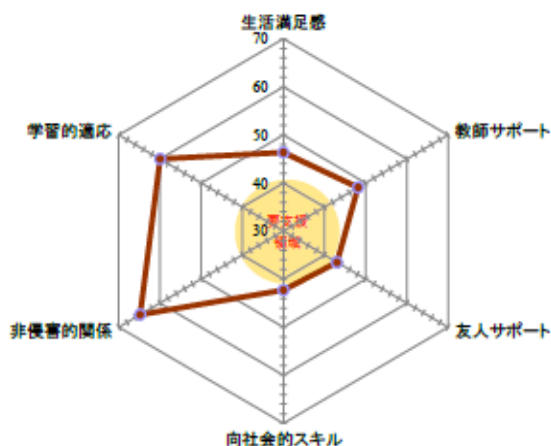
他多数

(ウ) アンケートの実施

生徒用として「アセス(学校環境適応感尺度)」と学校独自に作成した「生徒自身が身につけたい資質・能力」の2種類を準備。保護者用は「子どもに身につけて欲しい資質・能力」、企業用は「(その企業に就職する)本校生徒に身につけておいて欲しい資質・能力」を問うアンケートを準備した。なお、アセスを除く3種類のアンケートは学校独自のもので、「『本校生徒に身につけて欲しい能力』に関するアンケート(自由記述)」を基にして「学力・協調性・主体性・社会性」をバランス良く含む内容として、令和元年7月に実施した。

(a) 生徒用 その1 (アセス[学校環境適応感尺度]) [姫北資料①参照]

【姫路北高校アセスの結果】



【分析・総括】

明らかに「向社会的スキル」と「友人サポート」の値が低い。本校が考える4つの資質・能力のうち、「主体性」及び「協調性」を育成する必要があることが分か

る。そのため、学校教育でのあらゆる場面(グランドデザインの中の「教科指導・特別活動・部活動等」)において、自尊感情・自己有用感を高めていく必要がある。それを土台として、他者との積極的な関わりを促していく必要がある。

(b) 生徒用 その2 (卒業までに身につけたい力) [姫北資料②参照]

「めざす生徒像」の教員アンケート(自由記述)で出された意見を基に、カリキュラム・マネジメント委員会で意見交換をし、質問項目を精選して実施した。

(c) 保護者用(卒業までにお子様に身につけて欲しい力) [姫北資料③参照]



夏季休業前の三者面談を利用して保護者アンケートを依頼し、回収した。

(d) 企業用(姫路北高生が身につけておくべき力) [姫北資料④参照]

本校卒業生が就職先としてお世話になっている企業に郵送で依頼した。なお、質問数が多すぎるとの意見が校内にあり、再度委員会で検討し24項目を14項目に絞り込んだ。

【第1回アンケート結果(生徒・保護者)】

| 項目 | 内 容 | 学 力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 生徒(334名) | | | 保護者(391名) | | |
|-----|--------------------|-----|-------|-------|-------|------------------|-------|---------|-----------|--------|---------|
| | | | | | | 卒業までに | 今の段階で | (A)-(B) | 卒業までに | 今の段階で | (C)-(D) |
| | | | | | | (A) | (B) | | (C) | (D) | |
| 1 | 計算力 | ○ | | | | 3.21 | 2.44 | 0.77 | 3.42 | 2.69 | 0.73 |
| 2 | 漢字を読み書きする力 | ○ | | | | 3.44 | 2.65 | 0.79 | 3.44 | 2.77 | 0.67 |
| 3 | 文章を書く力 | ○ | | | | 3.38 | 2.44 | 0.94 | 3.36 | 2.49 | 0.87 |
| 4 | 進路実現に必要な知識・技能 | ○ | | | | 3.47 | 2.32 | 1.15 | 3.55 | 2.36 | 1.19 |
| 5 | 相手の立場に立って考える力 | ○ | | ○ | | 3.47 | 2.69 | 0.78 | 3.59 | 2.83 | 0.76 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.50 | 2.49 | 1.01 | 3.58 | 2.42 | 1.16 |
| 7 | 相手の話を理解する力 | ○ | | | ○ | 3.60 | 2.75 | 0.85 | 3.57 | 2.67 | 0.90 |
| 8 | 仲間と協力して取り組む力 | | | ○ | | 3.40 | 2.77 | 0.63 | 3.56 | 2.93 | 0.63 |
| 9 | 相手を思いやる力 | | | ○ | | 3.51 | 2.90 | 0.61 | 3.63 | 3.11 | 0.52 |
| 10 | 自分のことは自分でやる力 | | ○ | | | 3.57 | 2.81 | 0.76 | 3.63 | 2.75 | 0.88 |
| 11 | 自分が今すべきことを考える力 | | ○ | | | 3.54 | 2.69 | 0.85 | 3.62 | 2.50 | 1.12 |
| 12 | 周りに迷惑をかけないように行動する力 | | | | ○ | 3.53 | 2.76 | 0.77 | 3.66 | 2.91 | 0.75 |
| 13 | 目標に向けて努力する力 | | ○ | | | 3.51 | 2.66 | 0.85 | 3.60 | 2.57 | 1.03 |
| 14 | ルールを守る力 | | | | ○ | 3.57 | 3.02 | 0.55 | 3.64 | 2.96 | 0.68 |
| 15 | マナーを守る力 | | | | ○ | 3.56 | 3.05 | 0.51 | 3.64 | 3.00 | 0.64 |
| 16 | 相手の注意を素直に受け入れる力 | | | ○ | ○ | 3.47 | 2.85 | 0.62 | 3.60 | 2.67 | 0.93 |
| 17 | 相手の話を聞く力 | | | ○ | ○ | 3.56 | 2.86 | 0.70 | 3.61 | 2.63 | 0.98 |
| 18 | 状況に応じて適切に判断する力 | ○ | | | ○ | 3.58 | 2.69 | 0.89 | 3.58 | 2.55 | 1.03 |
| 19 | 他者と積極的に話をする力 | | ○ | ○ | | 3.49 | 2.55 | 0.94 | 3.48 | 2.75 | 0.73 |
| 20 | 時間を守る力 | | | | ○ | 3.58 | 2.94 | 0.64 | 3.71 | 2.84 | 0.87 |
| 21 | 自分からあいさつをする力 | | ○ | | | 3.41 | 2.78 | 0.63 | 3.64 | 2.92 | 0.72 |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.45 | 2.52 | 0.93 | 3.61 | 2.35 | 1.26 |
| 23 | コツコツと物事に取り組む力 | | ○ | | | 3.52 | 2.67 | 0.85 | 3.56 | 2.51 | 1.05 |
| 24 | 自分らしさを表現する力 | ○ | ○ | | | 3.43 | 2.62 | 0.81 | 3.52 | 2.53 | 0.99 |
| 平 均 | | | | | | 3.49 | 2.71 | 0.79 | 3.58 | 2.70 | 0.88 |
| | | | | | | (なりたい自分) (自己肯定感) | | (将来の期待) | | (現状評価) | |
| 学力 | | | | | | 3.45 | 2.57 | 0.89 | 3.51 | 2.59 | 0.92 |
| 主体性 | | | | | | 3.49 | 2.66 | 0.83 | 3.58 | 2.61 | 0.97 |
| 協調性 | | | | | | 3.48 | 2.77 | 0.71 | 3.58 | 2.82 | 0.76 |
| 社会性 | | | | | | 3.55 | 2.82 | 0.73 | 3.62 | 2.74 | 0.88 |

 → 「平均」の1.1倍以上
 → 「平均」の0.9倍以下

【第1回アンケート結果(生徒)】※上位5項目

| 項目 | 内 容 | 学 力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 生徒(334名) | | |
|----|------------------|--------|-------------|-------------|-------------|----------|-------|---------|
| | | | | | | 卒業までに | 今の段階で | (A)-(B) |
| | | | | | | (A) | (B) | |
| 4 | 進路実現に必要な知識・技能 | ○ | | | | 3.47 | 2.32 | 1.15 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.50 | 2.49 | 1.01 |
| 3 | 文章を書く力 | ○ | | | | 3.38 | 2.44 | 0.94 |
| 19 | 他者と積極的に話をする力 | | ○ | ○ | | 3.49 | 2.55 | 0.94 |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.45 | 2.52 | 0.93 |

【第1回アンケート結果(保護者)】※上位5項目

| 項目 | 内 容 | 学 力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 保護者(391名) | | |
|----|------------------|--------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------|---------|
| | | | | | | 卒業までに | 今の段階で | (C)-(D) |
| | | | | | | (C) | (D) | |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.61 | 2.35 | 1.26 |
| 4 | 進路実現に必要な知識・技能 | ○ | | | | 3.55 | 2.36 | 1.19 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.58 | 2.42 | 1.16 |
| 11 | 自分が今すべきことを考える力 | | ○ | | | 3.62 | 2.50 | 1.12 |
| 23 | コツコツと物事に取り組む力 | | ○ | | | 3.56 | 2.51 | 1.05 |

【第1回アンケート結果(企業)】

| 項目 | 内 容 | 学 力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 企業(22社) |
|----|------------------|--------|-------------|-------------|-------------|---------|
| | | | | | | 重要度 |
| | | | | | | (E) |
| 14 | ルールを守る力 | | | | ○ | 3.73 |
| 7 | 相手の話を理解する力 | ○ | | | ○ | 3.60 |
| 8 | 仲間と協力して取り組む力 | | | ○ | | 3.60 |
| 13 | 目標に向けて努力する力 | | ○ | | | 3.55 |
| 21 | 自分からあいさつをする力 | | ○ | | | 3.55 |
| 5 | 相手の立場に立って考える力 | ○ | | ○ | | 3.46 |
| 9 | 相手を思いやる力 | | | ○ | | 3.46 |
| 23 | コツコツと物事に取り組む力 | | ○ | | | 3.28 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.14 |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.14 |
| 18 | 状況に応じて適切に判断する力 | ○ | | | ○ | 3.10 |
| 19 | 他者と積極的に話をする力 | | ○ | ○ | | 3.00 |
| 1 | 計算力 | ○ | | | | 2.87 |
| 24 | 自分らしさを表現する力 | ○ | ○ | | | 2.87 |
| 平均 | | | | | | 3.32 |

→ 「平均」の1.1倍以上
 → 「平均」の0.9倍以下

| | |
|-----|------|
| 学力 | 3.17 |
| 主体性 | 3.23 |
| 協調性 | 3.38 |
| 社会性 | 3.39 |

これらのアンケートを作成・実施・集計・分析することで、「教員がめざしている学校教育とその取組」と「生徒・保護者・企業のそれぞれがめざす(あるいは求める)目標」の明確化を図った。

ウ グランドデザインに基づく教育活動の在り方

本校のアドバイザーの奈良教育大学赤沢早人教授に「カリキュラム・マネジメントのキーワードとして『焦点化』がある。姫路北が考えた4つの資質・能力をバランス良く育成させるのも1つの方策であるが、1つに焦点化して生徒を支援することが近道になる場合もある」との助言を受け、次の3つの取組を行った。

- (ア) 校内研修「生徒の社会性向上をめざして」
- (イ) 教科の垣根を越えた公開授業
- (ウ) 校内研修「生徒の主体性を引き出す方法、育む方法について」および ICT を活用した公開授業

(ア) 校内研修「生徒の社会性向上をめざして」

生徒の社会性を向上させるための手立てに関するグループ協議を行った。生徒・保護者・企業向けに実施した「本校生徒が身につけておくべき能力」の上位であった「社会性」に焦点を絞り、グループ協議を行った。[姫北資料⑤参照]

生徒指導に関する協議のため、様々な意見が飛び交い非常に活発な研修となった。[姫北資料⑥参照]

その結果、教員が考える最も大きな課題は「授業中等での携帯電話の使用」であることを共有し、その課題克服の方策を練ることになった。そして、生徒向け「携帯電話の使用に関するアンケート」[姫北資料⑦参照]を作成し、実施した。(集計結果は[姫北資料⑧参照])

さらに、集計結果について協議する研修を行い、以下の課題を共有した。

「携帯電話の使用に関するアンケート」の分析

- ・「暇な時間がある」が最大の理由であり、授業改善が必要
- ・「板書をプリントに写すとき」には携帯電話の操作を止めるからと言って、写経のように書かせ続けては「主体性」は育たない
- ・Q4の「使用していない生徒から見て、使用している生徒に対して」は「周りに迷惑をかけないからよい」や「注意よりも授業を進めてほしい」といった意見が多く、他者への関心が薄いことを示している

この分析を踏まえて、授業改善が喫緊の課題であり、生徒の授業中の様子や授業担当者と生徒との関わり方や、どのような授業を行えば生徒は「暇な時間がある」と感じないのか、といった方法を見出す必要があると考えた。これらの課題や悩みを解消するために、「教科の垣根を越えた公開授業」を実施した。

(イ) 教科の垣根を越えた公開授業

公開授業や研究授業とは「教科の専門性」を追求し、生徒の学びを進化・深化させるものである。しかしながら、本校の現状を鑑みると、専門的に授業研究を深めていく前に、生徒の興味・関心を引き出すような授業展開や、授業担当者と生徒と

の良好な人間関係を構築することがまず必要となると考えた。そういった「人間関係を重視する授業の雰囲気づくり」は、むしろ専門性に距離を置くことによってより明確になると考えられる。それを踏まえた上で、作成した学習指導案が〔姫北資料⑨〕である。

この指導案の特徴は、「教材・単元・授業内容」といった箇所を簡素化し、「生徒観」や「重視する4つの資質・能力」に焦点化したものである。この様式を用いることで、「他教科だからよく分からない」という場面が減り、他教科教員が生徒に近い視線で授業を参観できる。また、公開授業の参観者を研修グループのメンバーとして、メンバー同士の授業時間割の重複が少ない曜日、校時を示し、多くの教員が主体的に参加できる体制を整えた。

さらに、この公開授業は生徒理解をより深めることが大きな目的である。ある授業では消極的だが、別の授業では発表や質問をして積極的に学習している生徒が観察されれば、その原因がどこにあるのかを各教員が考えることになる。生徒の取組の違いの背景にある、「授業の展開やテンポの違い」、「生徒自身の得意・不得意」、「授業担当者と生徒との関係性」といった様々な要因を明かにして、自身の授業に生かすことが肝要となる。

【「公開授業週間を終えて」参観者の感想】

[公開授業後に意識するようになったこと]

- ・ 机間指導で、どんどん生徒に声をかけるようになった
- ・ 教材選びの重要性を改めて考えた
- ・ 目の前にいる生徒の実態をより意識するようになった
- ・ 生徒の思考の流れを考えるようになり、授業展開・発問の仕方を見直した
- ・ 視覚情報を重視するようになった
- ・ 事前の準備で回りくどくならない説明をするようになった

[公開授業実施時の生徒の様子(いつもと違っていった点)]

- ・ 携帯電話を触る生徒が少なかった
- ・ 日頃関わっている生徒が、想像以上に集中して取り組んでいた
- ・ いつも以上に騒ぐ生徒・静かになる生徒がおり、様々な反応があった
- ・ 公開授業週間は教員だけでなく、生徒も引き締まる
- ・ 他の先生方が見学に来られることを喜んでいる生徒もいる
- ・ 見られることを嫌がる生徒もいる

[公開授業を実施するメリット]

- ・ 様々な授業を見学することで、自身に関わっている生徒の違う一面を見られる
- ・ 他教科の見学は新鮮で、生徒目線で取り組むことができる
- ・ (教員・生徒共に)授業に対する意識が高まる
- ・ 授業の指摘を受けることで、生徒にとって分かりにくい点分かる
- ・ 授業の雰囲気をつくっていく過程を知ることができる

次に、これらの意見を研究テーマとした公開授業を行った。実施方法は前回と同様だったが、ICT環境を十分に活用した形での授業構成を担当者には課した。以下が、公開授業終了後の校内研修で出された意見である。

【「令和2年度 後期公開授業週間を終えて」教員の意見】

1 公開授業で工夫されていた点

- ・教員が説明する時間を短くし、生徒の活動時間を長くする
- ・パワーポイントと板書を組み合わせることで、双方の効果を上げる
- ・聞く時間と活動する時間のメリハリをつける
- ・「学習ポートフォリオ」を用いて、自分で目標を決める
- ・「生徒は教員が考えている以上に難しいアプリを使うことができる」ことが分かった
- ・同じような繰り返しの演習を減らし、ゲーム形式で主体的に取り組めるようにする

2 1を円滑に行うために準備(意識)してきたこと(授業者のみ)

- ・生徒の輪の中に入り過ぎない(口を出し過ぎない)
- ・ログインの手間を省くため、ログイン不要で画面を共有できるサイトを活用した
- ・パワーポイント作成の際、生徒の立場に立って考えた

3 1、2を踏まえて、主体性をさらに伸ばすために有効と思われる手法

- ・「今月の目標」といった小さな目標を準備させ、達成して充実感を得る機会を増やす
- ・Google フォーム等の ICT を活用して、学習ポートフォリオを学校で統一する
- ・知識のインプットなしにアウトプットはできないので、そのバランスが重要
- ・「今、何を」するかを明確にすることで、主体的に動けるように導く
- ・ICT を活用して、口頭では分かりづらいことを動画や画像で示して理解度を高める

エ 第2回アンケートについて

このアンケートは前回(第1回)の約半年後の令和2年2月に実施したものである。

【第2回アンケート結果(生徒のみ)】

| 項目 | 内 容 | 学 力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 卒業までに(A) | | | 今の段階で(B) | | | ギャップ(B)-(A) | | | |
|-----|--------------------|------|-------|-------|-------|----------|---------|------|----------|---------|----|-------------|----------|----|-------|
| | | | | | | 334名 | 319名 | 変化 | 334名 | 319名 | 変化 | 334名 | 319名 | 変化 | ②-① |
| | | | | | | 第1回(7月) | 第2回(2月) | | 第1回(7月) | 第2回(2月) | | ①第1回(7月) | ②第2回(2月) | | |
| 1 | 計算力 | ○ | | | | 3.21 | 3.24 | ↗ | 2.43 | 2.44 | ↗ | 0.78 | 0.80 | ↗ | 0.02 |
| 2 | 漢字を読み書きする力 | ○ | | | | 3.44 | 3.45 | ↗ | 2.50 | 2.65 | ↗ | 0.94 | 0.80 | ↘ | -0.14 |
| 3 | 文章を書く力 | ○ | | | | 3.38 | 3.44 | ↗ | 2.44 | 2.44 | → | 0.94 | 1.00 | ↗ | 0.06 |
| 4 | 進路実現に必要な知識・技能 | ○ | | | | 3.47 | 3.45 | ↘ | 2.39 | 2.32 | ↘ | 1.08 | 1.13 | ↗ | 0.05 |
| 5 | 相手の立場に立って考える力 | ○ | | ○ | | 3.47 | 3.45 | ↘ | 2.75 | 2.69 | ↘ | 0.72 | 0.76 | ↗ | 0.04 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.50 | 3.51 | ↗ | 2.47 | 2.49 | ↗ | 1.03 | 1.02 | ↘ | -0.01 |
| 7 | 相手の話を理解する力 | ○ | | | ○ | 3.60 | 3.53 | ↘ | 2.70 | 2.75 | ↗ | 0.90 | 0.78 | ↘ | -0.12 |
| 8 | 仲間と協力して取り組む力 | | | ○ | | 3.40 | 3.45 | ↗ | 2.70 | 2.77 | ↗ | 0.70 | 0.68 | ↘ | -0.02 |
| 9 | 相手を思いやる力 | | | ○ | | 3.51 | 3.50 | ↘ | 2.86 | 2.90 | ↗ | 0.65 | 0.60 | ↘ | -0.05 |
| 10 | 自分のことは自分でやる力 | ○ | | | | 3.57 | 3.57 | → | 2.75 | 2.81 | ↗ | 0.82 | 0.76 | ↘ | -0.06 |
| 11 | 自分が今すべきことを考える力 | | ○ | | | 3.54 | 3.50 | ↘ | 2.68 | 2.69 | ↗ | 0.86 | 0.81 | ↘ | -0.05 |
| 12 | 周りに迷惑をかけないように行動する力 | | | | ○ | 3.53 | 3.54 | ↗ | 2.87 | 2.76 | ↘ | 0.66 | 0.78 | ↗ | 0.12 |
| 13 | 目標に向けて努力する力 | | ○ | | | 3.51 | 3.51 | → | 2.65 | 2.66 | ↗ | 0.86 | 0.85 | ↘ | -0.01 |
| 14 | ルールを守る力 | | | | ○ | 3.57 | 3.60 | ↗ | 3.02 | 3.02 | → | 0.55 | 0.58 | ↗ | 0.03 |
| 15 | マナーを守る力 | | | | ○ | 3.56 | 3.60 | ↗ | 3.03 | 3.05 | ↗ | 0.53 | 0.55 | ↗ | 0.02 |
| 16 | 相手の注意を素直に受け入れる力 | | | ○ | ○ | 3.47 | 3.48 | ↗ | 2.85 | 2.85 | → | 0.62 | 0.63 | ↗ | 0.01 |
| 17 | 相手の話を聞く力 | | | ○ | ○ | 3.56 | 3.54 | ↘ | 2.92 | 2.86 | ↘ | 0.64 | 0.68 | ↗ | 0.04 |
| 18 | 状況に応じて適切に判断する力 | ○ | | | ○ | 3.58 | 3.56 | ↘ | 2.70 | 2.69 | ↘ | 0.88 | 0.87 | ↘ | -0.01 |
| 19 | 他者と積極的に話をする力 | | ○ | ○ | | 3.49 | 3.42 | ↘ | 2.51 | 2.55 | ↗ | 0.98 | 0.87 | ↘ | -0.11 |
| 20 | 時間を守る力 | | | | ○ | 3.58 | 3.57 | ↘ | 2.94 | 2.94 | → | 0.64 | 0.63 | ↘ | -0.01 |
| 21 | 自分からあいさつをする力 | | ○ | | | 3.41 | 3.48 | ↗ | 2.76 | 2.78 | ↗ | 0.65 | 0.70 | ↗ | 0.05 |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.45 | 3.41 | ↘ | 2.53 | 2.52 | ↘ | 0.92 | 0.89 | ↘ | -0.03 |
| 23 | コツコツと物事に取り組む力 | | ○ | | | 3.52 | 3.48 | ↘ | 2.60 | 2.67 | ↗ | 0.92 | 0.81 | ↘ | -0.11 |
| 24 | 自分らしさを表現する力 | ○ | ○ | | | 3.43 | 3.42 | ↘ | 2.64 | 2.62 | ↘ | 0.79 | 0.80 | ↗ | 0.01 |
| 平 均 | | | | | | 3.49 | 3.49 | → | 2.70 | 2.71 | ↗ | 0.80 | 0.79 | ↘ | -0.01 |
| | | | | | | (なりたい自分) | | | (自己肯定感) | | | | | | |
| 学力 | | 3.45 | 3.45 | → | 2.55 | 2.56 | ↗ | 0.90 | 0.89 | ↘ | | | | | |
| 主体性 | | 3.49 | 3.47 | ↘ | 2.64 | 2.66 | ↗ | 0.83 | 0.81 | ↘ | | | | | |
| 協調性 | | 3.48 | 3.47 | ↘ | 2.76 | 2.77 | ↗ | 0.71 | 0.70 | ↘ | | | | | |
| 社会性 | | 3.55 | 3.54 | ↘ | 2.83 | 2.82 | ↘ | 0.71 | 0.72 | ↗ | | | | | |

→ 「平均」の1.1倍以上
 → 「平均」の0.9倍以下

【第1回アンケート結果(生徒)】※上位5項目(再掲)

| 項目 | 内 容 | 学力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 生徒(334名) | | |
|----|------------------|----|-------------|-------------|-------------|----------|-------|---------|
| | | | | | | 卒業までに | 今の段階で | (A)-(B) |
| | | | | | | (A) | (B) | |
| 4 | 進路実現に必要な知識・技能 | ○ | | | | 3.47 | 2.32 | 1.15 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.50 | 2.49 | 1.01 |
| 3 | 文章を書く力 | ○ | | | | 3.38 | 2.44 | 0.94 |
| 19 | 他者と積極的に話をする力 | | ○ | ○ | | 3.49 | 2.55 | 0.94 |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.45 | 2.52 | 0.93 |

【第2回アンケート結果(生徒)】※上位5項目

| 項目 | 内 容 | 学力 | 主 体 性 | 協 調 性 | 社 会 性 | 卒業までに(A) | 今の段階で(B) | ギャップ(B)-(A) |
|----|------------------|----|-------------|-------------|-------------|----------|----------|-------------|
| | | | | | | 319名 | 319名 | 319名 |
| | | | | | | 第2回(2月) | 第2回(2月) | ②第2回(2月) |
| 4 | 進路実現に必要な知識・技能 | ○ | | | | 3.45 | 2.32 | 1.13 |
| 6 | 自分の考えを相手に正しく伝える力 | ○ | | | ○ | 3.51 | 2.49 | 1.02 |
| 3 | 文章を書く力 | ○ | | | | 3.44 | 2.44 | 1.00 |
| 22 | 困難に立ち向かう力 | | ○ | | | 3.41 | 2.52 | 0.89 |
| 19 | 他者と積極的に話をする力 | | ○ | ○ | | 3.42 | 2.55 | 0.87 |

(ア) 分析・総括

令和元年7月実施の第1回アンケートから約半年後の令和2年2月に、生徒の資質・能力に認識の変化があるのか把握するため、同じ質問内容で全生徒に第2回アンケートを実施した。残念ながら、「卒業までに身につけたい力」の上位項目についても、「現段階で身につけていると考える力」のレベルについても有意な変化は見られなかった。取組の期間が短かったことや、その取組が授業に限定されたためであると考えられる。

それに加えて、本校生徒にこれらのアンケート質問項目を示すには、具体性に欠けていたかもしれない。「～する力」という問いでは非常に抽象的で捉え方も千差万別になってしまう。例えば、質問項目3「文章を書く力」の場合、「講演会等の感想文を書くことが楽しくなってきた」のように生徒の活動に直結した項目でなければ、変化は見られないかもしれない。そういった質問項目をそれぞれの「～する力」に当てはめて準備すれば、生徒の成長していく様子がより明確にできると考えられる。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

本校生徒に必要な資質・能力を4つの領域(学力・主体性・協調性・社会性)に分類し、それらの中で教員、生徒、保護者、進路先の企業の4者それぞれが特に重要と考えるものを確認するためにアンケート調査を実施した。その結果を受けて、「社会性」と「主体性」に焦点を定めて調査研究を行った。

最大の成果は、「教員同士の話し合いの場面が格段に増えたこと」や「各教員の生徒への関わり方の変化」が挙げられる。また「『授業中での携帯電話の使用禁止』を徹底する」ための研修(「社会性の向上をめざして」)を実施した際には、従来の指導方法に固執せずに、生徒の主体性を伸ばすための方策を全教員で討議し、教員の協働体制を確立したことは大きな成果である。

しかしながら、2回目のアンケート結果は生徒の変容を示す結果とならなかった。その原因として、質問項目が生徒にとって具体的でなかったことが挙げられる。その改善方策として、生徒アンケート質問項目の練り直しを随時行い、生徒がめざす方向性をより明確に示すことが重要だと考える。昨年度から今年度にかけての指定期間中は、教員による校内研修を数多く実施し、めざすべき目標を決定してきたが、その「教員の想い」を生徒や保護者と共有する機会があまりなかった。その3者ないしは企業を含めた4者が、目標に向かって協力し合える関係を築くことをめざす必要もある。

この解決策として「総合的な探究の時間」を活用することが考えられる。具体的には、教員を5人程度のグループに分け、前述した4つの資質・能力を育成するための学習方法を討議・決定し、当該授業の年間予定に組み込む。受講生徒は年次を越えた構成にして、教員と生徒とのマッチングで受講人数を定める。そうした上で、講座内容に沿って教員グループと受講生徒の組み合わせを弾力的に運用することが考えられる。

重要な点は、「教員が『本校生徒にとって』伸ばすべき資質・能力を明確化し、それをいかに実践できるか」である。また、カリキュラム・マネジメントを実践する上で不可欠なことは全教員の意思統一であり、組織的な実践を推進するには、管理職やカリキュラム・マネジメント担当者が、教員グループのリーダーを指名することが重要だと考える。

そのグループリーダーで構成した委員会をカリキュラム・マネジメント委員会とし、定例会議で進捗状況の把握に努める。当然ながら適宜、校内研修を開催して意見交換や新たな課題の探究の場面とする。

今回の実践においては、現在考えられる全ての方策をあらゆる手段を用いて実施した。それを経て感じることは、管理職や担当者のリーダーシップは確かに重要だが、全ての教員が積極的に取り組める環境をつくることが重要だと考える。

(4) 姫路北高校における年間実施スケジュール

| 月 | 取組内容 |
|-----|--------------------------|
| 4月 | 休業中の学力保障の取組 |
| 5月 | ↓ |
| 6月 | 学校再開後の学力保障の取組 |
| 7月 | 兵庫県カリキュラム・マネジメント検討会議での報告 |
| 8月 | 校内研修等の準備 |
| 9月 | 23日(水)第1回校内研修 |
| 10月 | 公開授業に向けた各教科担当者会議 |
| 11月 | 公開授業 |
| 12月 | 18日(金)第2回校内研修 |
| 1月 | 課題の整理 |
| 2月 | 校内カリマネ検討委員会 |
| 3月 | 報告書の提出 |

実践校Ⅱ【兵庫県立北条高等学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（めざす児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

学習の基盤となる資質・能力を高等学校からの視点だけではなく、地域の中学校と連携し、特に言語活動を中心とした各発達段階における学習の基盤となる資質・能力とは何かということを明らかにする。その上で、高等学校段階で身に付けるべき資質・能力や、それを育成するための授業改善の手法や評価方法等をまとめる。

ア 本校の実態

本校は定員減により学校規模の縮小が進行する中、中規模校の頃の仕組みがそのまま引き継がれており、学校の在り方を再検討する時期に差し掛かっている。また、地域においては加西市内唯一の普通科高等学校としての期待を背負っており、目に見える実績として「大学進学」に重きを置いた教育が進められ、「頑張る人をあたたかく応援する」のスローガンのもと、放課後や土曜日の補習、推薦入試のための面接や小論文のための指導、予備校との提携など、手厚いサポート体制が整備されている。また、平成28年度から普通科総合人間系コースとして「人間創造コース」が設置され、学校設定教科「創造」を中心とした探究活動を展開し、思考力や実践力、表現力等の育成をめざす側面も有している。

一方で、進学実績を重視するあまり、新学習指導要領がめざす「資質・能力の育成」という観点やや弱く、アクティブ・ラーニング型授業の研究を進めているものの、その成果が十分に教育活動全体に波及していないという現状がある。さらに、手厚いサポート体制は進学実績の維持・向上に寄与しているが、場合によっては生徒の主体性や自立心の育成を妨げているところもあり、生徒が学校や教師を頼りすぎたり、自ら学ぶ姿勢を十分に持てなかったりしている。

また、生徒の大半が地元加西市の出身という地域密着型の高等学校で、市内の中学校との交流も長く続いているという特徴がある。人間関係が刷新されないというデメリットもあるが、中学校との連携を通して「生徒の学びの連続性」を確保しやすい環境にある。

そこで本校では、カリキュラム・マネジメントの実践を通して次のことをめざすこととした。

① 資質・能力の育成を図る学校体制の構築

新学習指導要領がめざす資質・能力の育成という視点を広めながら、より良い教育の在り方をめざそうとする姿勢を定着させる。その中で、これまでの本校の取組の良さや成果を生かしながら、取組の整理再編、各取組の有機的な連携を図って効率的かつ効果的な教育をめざす。

② 中学校との連携

加西市内の中学校との連携をこれまで以上に深めることで、各発達段階における資質・能力が何なのか、高校段階で身に付けるべき資質・能力が何なのかを検討し、生徒の学びの連続性を意識した教育をめざす。

イ 2年目の取組 [北条資料1]

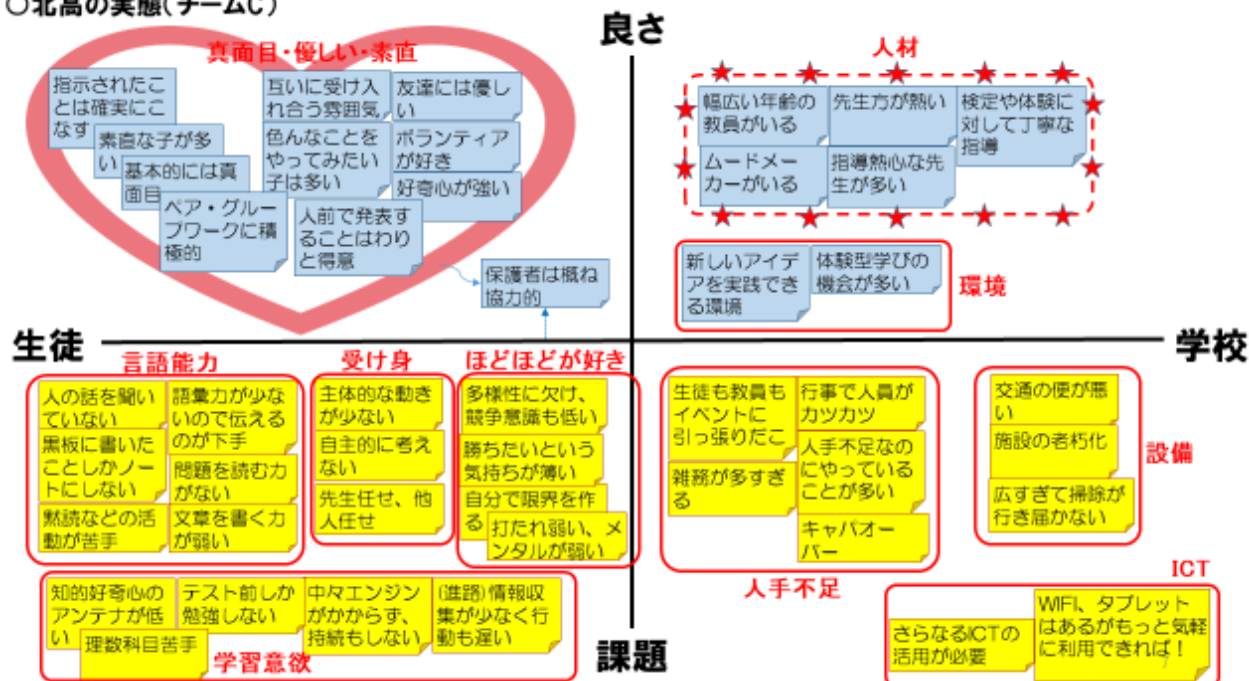
① 教員ワークショップによる学校・生徒の実態の見える化

令和元年度12月に実施した「カリキュラム・マネジメント委員会」を踏まえ、令和元年度2月に教員ワークショップを実施し、学校や生徒の「良さ」と「課題」を整理した。ワークショップの実施にあたっては『ワークショップ型教員研修 はじめの一步』(村川雅弘著)を参照し、「概念化シート」を用いたものとした。全教員が積極的に参加したこともあり、なんとなく認識していた学校や生徒の「良さ」と「課題」が明確となるなど、大きな手ごたえを感じた。

その後、ワークショップの成果をCM委員会(校内委員会)で検討し、本校生徒の「言語能力の弱さ」に着目した。言語能力は学習の基盤となる資質・能力の一つであり、さらに本校が設定した育成する資質・能力の多くに関係することから、2年目の取組を「言語能力の育成」に焦点化し、言語活動を充実させることをテーマとして設定した。

【概念化シート（模造紙にまとめたものをデジタル化したもの）】

○北高の実態(チームC)



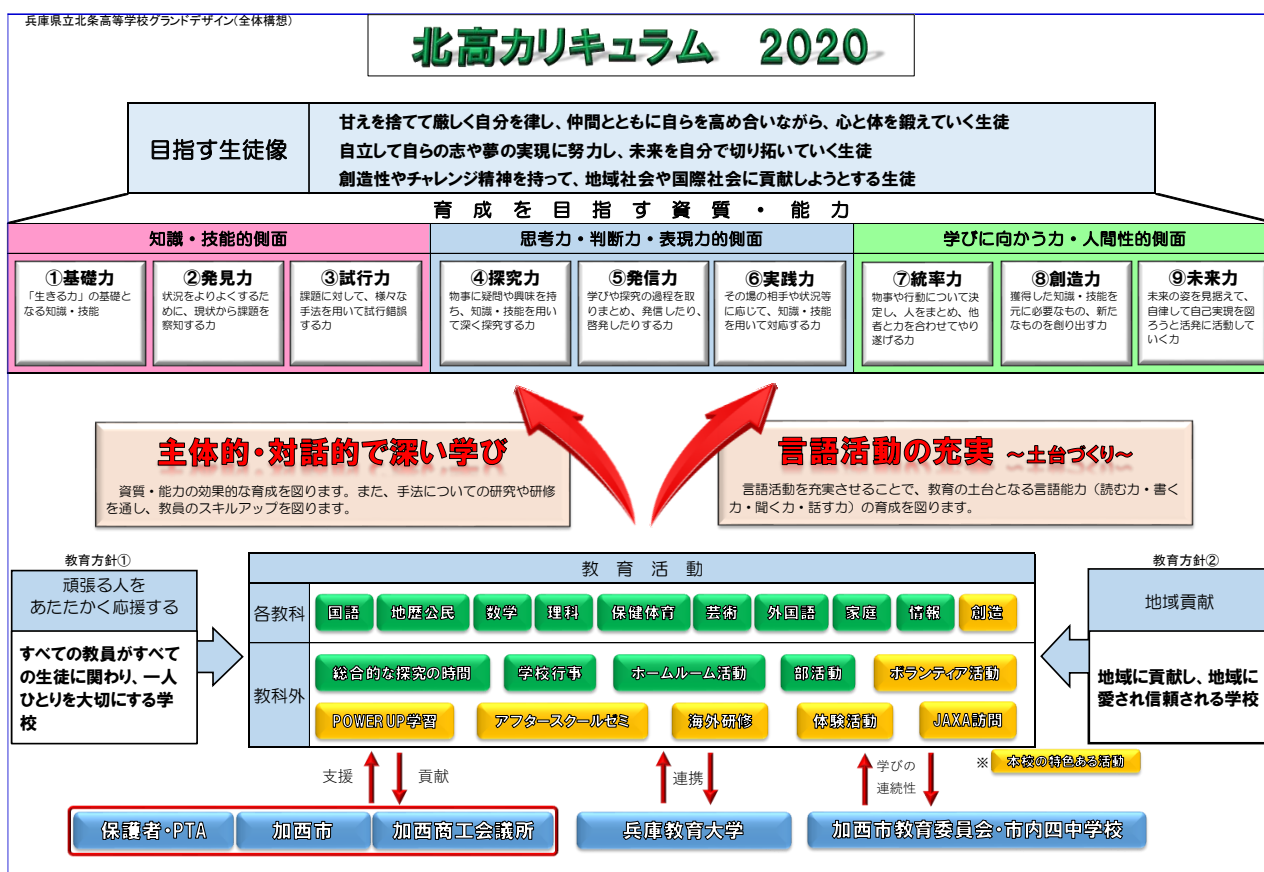
② グランドデザインの改定 (北高カリキュラム2020の策定)

2年目の取組が焦点化されたことを踏まえ、令和2年度に向けたグランドデザインの改定をおこなった。主な改定点は、i 「言語活動の充実」を追記、ii デザイン

性や見やすさを意識した構成に変更、iii教育方針（「頑張る人をあたたかく応援する」「地域貢献」）を追加、の3点である。

改定版は令和2年4月当初の職員会議にて職員全員に配布して説明したほか、入学生のオリエンテーション、中学生向けのオープンハイスクール、シラバス冊子等で積極的に活用し、内外に向けて発信した。

【北条高校グランドデザイン 北高カリキュラム2020】



ウ 言語活動の充実に向けた取組

① 言語能力の具体化と育成のための言語活動についての整理

「話す・聞く」「読む」「書く」といった言語能力をより具体化させ、具体化させた言語能力をどのように育成するかについて各教科に検討を依頼し、集まったアイデアをCM委員会(校内委員会)で整理し、本校独自のアイデア集を作成した。

【言語能力の具体化と育成のための活動例】 [北条資料2]

| 分野 | 具体的な能力 | 育成のための言語活動例 | 資質・能力 |
|----------|--------------------------------|---|--------------|
| 話す 聞く | 他者の考えを理解し、それに対する自分の考えや意見を説明する力 | ペアワーク・グループワーク ・あるテーマについて考えたことを伝えあい、意見交換する。 ・ある情報を元に推論・考察したことについて討議する。 | ④探究力 ⑤発信力 |
| | 他者の考えをもとに、自分の考えを発展させたり修正したりする力 | ・ある問いに対してグループで検討し、グループとしての答えや結論をまとめる。 | ⑥実践力 ⑧創造力 |

| | | | |
|----|----------------------------------|---|------------------------------|
| | 自分が考えたことについて、理由や結論を論理的に説明する力 | 教師との対話（発問の工夫） ・「なぜ」「どのようにして」を使った発問により、生徒に説明を促す。 ・生徒の発言について「なぜそう思うのか」「○○についてはどう考えるか」など問いかけ、往復したやりとりをする。 ・ファンダメンタルクエスション（基本・基礎・根本的な問い）などを使い、正解のないことに対して考えさせ、自分の意見を述べさせる。 | ⑤発信力 |
| | 物事や事象について発見したことを他者に説明する力 | | ②発見力 ⑤発信力 ⑧創造力 |
| 書く | 事実の理解の上で自分の考えをまとめ、文章化する力 | 歴史上の出来事や実験結果といった「事実」を考察し、筋道を立てて意見を論述したり、レポートにまとめたりする。 | ①基礎力 ④探究力 ⑤発信力 ⑧創造力 |
| | 既得の知識や、資料から得られる情報を整理し、文章としてまとめる力 | 問いや課題に対し、自分の知識や資料等から得られた情報を元にして論述する。 | ①基礎力 ⑥実践力 |
| 読む | 文意を理解する力 | 教科書・教材・文献・WEBページなどを用い、書いてある内容についてまとめさせたり、要点を書かせたりする。 | ①基礎力 ②発見力 |
| | 理解できないところを把握する力 | 教科書の文章を読み、疑義のあるところや文意の理解が難しい所をピックアップする。 問いの解法等について、どこがどのように理解できないのかを把握する。 | ②発見力 ⑨未来力 |

また、これまで使用していた年間指導計画、シラバス、学校行事実施要項等の様式を改善し、設定した資質・能力を明記することで、職員・生徒への意識付けを図った。〔北条資料3～5〕

② 公開研究授業・校内研究授業

令和2年度の公開研究授業の研究テーマを「言語活動の充実」とし、研究授業担当の地歴・公民科、保健体育科、外国語科に「生徒の言語能力を育成するための言語活動の工夫」を依頼した。また、授業参観者には「言語活動の工夫点」を授業の展開や生徒の反応から見出してもらうこととし、研究協議においても、その工夫点についての協議や、普段の授業に取り入れるための方策についての検討を依頼した。終了後、担当教科には報告書を提出してもらい、CM委員会(校内委員会)で総括した上で、その内容を教員全員で共有した。

また、公開研究授業の成果を他教科へと還元するため、令和3年2月に国語科・数学科・理科の3教科で校内研究授業を実施し、言語活動の充実に向けた研究をさらに深めている。

③ 拡大カリキュラム・マネジメント委員会〔北条資料6〕

兵庫教育大学の池田匡史氏、加西市教育委員会、加西市内4中学校を交えた拡大カリキュラム・マネジメント委員会では、4中学校に言語活動についての事前の聞き取り調査を行い、各校の言語活動の取組をまとめ、委員会資料を作成した。あわせて、本校で令和2年度に取り組んだ言語活動を集約して委員会資料とした。委員会ではこれらの資料を基に、質疑応答や意見交換を行った。言語活動における中高

連携の深まりを感じるとともに、子どもの学びの連続性の確保につながるものになった。また、このような取組やアイデアの情報共有は、加西市内の学校教育全体の質を向上させることにもつながると考えている。

【加西市内中学校の言語活動の取組（一部）】

| 教科 | 学校 | 言語活動 | 工夫や配慮 |
|----|----|--|--|
| 国語 | | スピーチ | <ul style="list-style-type: none"> ・論説文を批判的に読み取り、筆者の主張に対して自分の考えをもたせる。 ・物語や詩・短歌・俳句の学習を通して、自分の考えを発表させたり、行間を読み取らせたりし、自分の考えを表現する力を身につけさせる。 |
| | | 詩や俳句、短歌の内容について感じたことを、鑑賞文としてまとめる。 物語の内容を捉えながら、その後の物語を創作する。 課題について少人数で話し合い、意見をまとめて発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各自に辞書を用意し、いつでも引けるようにする。 ・一人一人の発言を丁寧に聞き、クラス全体に広げる。 ・ホワイトボードを班ごと1枚渡し、自由に意見が書けるようにする。 |
| | | ①理由と根拠を示しながら自分の意見を話す、書く、反論する。 ②班で議論した内容を、自分の口で説明する。 ③他者の意見に対し、(疑問の質について押さえたうえで)質の高い疑問を持つ ④他者の文章を適切に評価する ⑤他者の意見を説明し直す。補足する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現する際には、相手意識（誰に伝えるのか）と目的意識（何のために伝えるのか）を意識させる。 ・言われる、書かされるのではなく、自然と頭を働かせ、自分の言葉で語りたくなるような課題の設定 →「冒頭と結末の一文から、間の物語を考えよう」 →「目の不自由な人にこの絵を説明するとしたら？」 →「文章の内容から竹取物語の作者像を推測しよう」 ・外言（表れるもの）だけでなく、内言を育てることも意識している。 |
| | | ・テーマを決めてスピーチ ・役割を決めてディベート ・班で話し合い活動 ・詩の朗読や音読 ・読書郵便 ・アナウンサーの速度で原稿読み ・古典朗読、暗唱、・辞書を使った意味調べ ・短歌や俳句作り ・根拠のある意見文を書く等 | <ul style="list-style-type: none"> ・班活動をするときは司会者や書記等どんな役割かをはっきりさせる。 ・言語に関する内容がニュースや新聞に載ったことは授業でも話題にする。 |
| 社会 | | 資料の読み取り、身近な題材、調べ学習を行い、班活動で見方、考え方を広げる。 | chromebook、ニュースや新聞、地域教材を活用する。 |
| | | 学習内容について生徒の力で問いを設定する「質問づくり」 学習内容を單元ごとに整理して発表、質疑応答 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の意図が明確に伝わる指示をおこなう ・多様な意見を受け入れられるよう、教師が受容的な雰囲気の中で生徒と関わるようにする。 |
| | | 教科書本文の読み取り | 毎時間の予習プリント（前日の宿題）で穴埋め問題にせず、一問一答タイプの設問で問い、授業の初めに生徒同士で答え合わせを行う。 |
| | | テーマに沿って班で話し合う | 発表者を班で決めさせたり、発表の要旨をホワイトボードにまとめ黒板掲示して、総括しクラスに発信する。 |
| | | 設定した問いに対して短文を解答を書く | 單元テストなどの際に設問を設定し、どこかの文章のコピーにせず自分の言葉で表現できるようにしている。テスト返却時に模範解答例として、数名の生徒の記述文をプリントにして配布している。 |
| | | 班による課題解決学習 班の意見をまとめてその説明を共有する グラフ等の読み取りと説明の発表 | <ul style="list-style-type: none"> 班長に偏らず、順次発表者を変更し、意見の共有を行うようにする。 読み取ったことをわかりやすく板書にまとめる |

【北条高校の言語活動の取組（一部）】

| 教科 | 学校 | 言語活動 | 工夫や配慮 |
|------|--------------------|--|--|
| 国語 | 北条高 | 本文に関する問いに対する意見を個人ワークで考えた後、グループワークで共有し、意見をまとめて全体に発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークを行い自分の意見を持った上でグループワークを行い、グループ内で必ず発言できるようにする。 ・他グループの発表を聴く際に内容のメモを必ず取らせることで、他者の発言を聴き理解する力を養う。 |
| | 北条高 | 新しい単元に入った時、各自で調べる語句を選んで調べ、調べた語句を5個以上用いて、自由作文する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・調べる語句を教師が提示するのではなく、自分で意味のわからない言葉を意識させ、語彙力養成につなげる。（1年時より継続指導） ・よくできた作文をクラスで共有し、言葉の使い方を学び合う。 |
| 地歴公民 | 北条高 | 単元内容に関する問いをグループワークで考え、論述(100～150程度)で解答させる | <ul style="list-style-type: none"> ・時代の本質や特徴を考察でき、かつ難度の高い問いについて考察させ、思考力を育成する。 ・考えるためのヒントを提示し、思考を促す。 ・Classiのグループで模範解答と解説を示して確認させ、文章を読むことに慣れさせるとともに、自ら学ぶ姿勢を意識させる。 |
| | 北条高 | 単元内容の模試・入試問題に取り組んだ後、グループで教え合いをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・解答・解説は配布せず（後日配布）、グループ内で問題について検討させ、学び合い、教え合いを意識させる。 |
| | 北条高 | 単元の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・個人での振り返りの助けになるようにグループ内での会話を認めている。 ・学力の3観点に関する自己評価だけでなく、単元の大事な点、理解を深めるための質問、授業全体の感想について文章で書かせる。 ・提出はClassiのアンケート形式とし、個別に教師がコメントをする。 ・振り返りの内容を教師がピックアップして集約し、全体にフィードバックする。 |
| | 北条高 | 授業前に単元の問いやテーマを提示し、授業終わりに文章化させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問いは単文ではなく、複文で設定する。「ひっくり返す問い」の設定。例「初期議会の特徴は『政府と政党の対立』だが、どのようにして政府の予算案が通過したり、なぜ政党が賛同する時があるのだろうか。」 |
| 北条高 | 現代社会の諸機関の活動を模擬的な体験 | <ul style="list-style-type: none"> ・裁判や選挙、オークションや株式会社などを模擬的に場面を設定したうえで体験させることで、生徒に学習内容についての実感を持たせ、その後の話し合い活動の質を向上させる。 | |

エ 新教育課程編成の教員ワークショップ

令和元年度2月のワークショップで多くの教員が手ごたえを感じてくれたことを受け、新学習指導要領が実施される令和4年度入学生の教育課程について、ワークショップ形式により、教員全員で検討する機会を設けた。

事前のミニ研修として新学習指導要領の要点を説明するとともに、各教科の目標や科目の情報を取りまとめた資料を配布した。これにより、教科の枠を超えた学校全体を見渡す視点を持ってもらうことを意識した。

ワークショップにおいては編成テーマとして「従来型」「文理融合型」「減単型」を設け、テーマに沿った工夫を考えながら、実際にコマ入れ作業を試みてもらった。作業時間の関係ではほとんどのグループが完成には至らなかったが、編成におけるアイデア、課題や注意すべき点などが明らかになったとともに、新教育課程についての教員の理解や関心の深まりも見られた。



(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

【成果】

- ① 校内のカリキュラム・マネジメント体制の整備
 - ・学校教育目標を元にした育成する資質・能力の設定と、それを踏まえたグランドデザイン作成によって「教育の見える化」が進展した。
 - ・授業のP D C Aサイクルを展開するための仕組みが整えられた。
 - ・教員研修で実施したワークショップ形式を、新教育課程編成の検討にも活用するなど、教員研修のあり方の幅が広がった。
- ② 中学校との連携強化
 - ・従来の「交流」レベルの繋がりがより進展し、互いの取組についての情報共有や意見交換が進み、子どもの学びの連続性を意識した繋がりがみられるようになった。
 - ・本校の取組を発信することにより、中学校から見た本校のイメージを改善するきっかけになった。
- ③ 授業研究のあり方の進展
 - ・カリキュラム・マネジメントを通して取組や研究テーマを焦点化したことで、従前からの取組である公開研究授業を「中高交流の場」から「中高連携のもとでの授業研究」に発展させることができた。
 - ・新たな取組として、公開研究授業の成果と課題を踏まえて実施する校内研究授業を開始し、授業研究を推進する体制が整備された。
- ④ 学習の基盤となる資質・能力としての言語能力の育成
 - ・1年目の取組を踏まえ、2年目の実践を「言語活動の充実」に焦点化させたことにより、本校の言語活動に関する研究や実践に進展がみられた。
 - ・中高連携においても言語活動に関する情報交換をおこない、言語活動における子どもの学びの連続性について意識できるようになった。

【課題と改善案】

- ① 教員の意識改善、教員間の温度差
 - ・カリキュラム・マネジメントに対する教員間の温度差は大きく、積極的に取り組もうとする者がいる一方で、消極的な教員も少なからずおり、実態として学校が一体となった取組にはなりきらなかった。これに対しては、カリキュラム・マネジメントを根気強く継続することで、その意識の浸透を図ることが必要である。
 - ・カリキュラム・マネジメントに対する教員間の知識差が大きく、それが温度差にも影響を与えた。教員研修の機会を確保しつつ、実践を通してカリキュラム・マネジメントの知識やノウハウを身に付けることができる手立てが必要である。
 - ・保守的傾向の強い者ほどカリキュラム・マネジメントに対する消極性が強く、彼らの意識を改善する手立てが十分ではなかった。
- ② 資質・能力の育成を軸とする教育の展開

- ・グランドデザインをはじめ、資質・能力の育成を意識する仕組みを整えて教育のあり方の転換を図ったが、学校全体としての転換は果たせなかった。授業だけでなく、特別活動や補習・部活動等の課外活動の実施等について、カリキュラム全体のあり方の検討が必要である。

② 適切な評価方法

- ・資質・能力についての評価のあり方は研究が進まず、その困難さを実感した。学習評価に対する知識や情報を集めた上で、より良い評価のあり方を検討する機会を作ることが必要である。
- ・子どもの言語能力についての評価も同様であった。また、言語能力の評価を国語以外の各科目の成績評価に入れるべきかという問題も浮上した。

③ 教員の負担、時間の確保

- ・カリキュラム・マネジメント体制の整備については、従前からの取組を改善することを軸に置き、できるだけ新たな取組を追加しないようにしたが、それでも負担を感じるがあった。全体の業務を見直し、いわゆる「働き方改革」を実現していくなかで、活動の評価(C)や改善案(A)をおこなう時間を確保し、持続可能なカリキュラム・マネジメント体制を築き上げる必要がある。

(4) 北条高校における年間実施スケジュール

| 月 | 取組内容 |
|-----|--|
| 4月 | 令和2年度グランドデザインの完成 年間指導計画(授業)の作成 |
| 5月 | |
| 6月 | CM委員会(校内委員会)① |
| 7月 | CM委員会(校内委員会)② 授業評価アンケート① |
| 8月 | 令和3年度2・3年生用シラバスの作成 |
| 9月 | CM委員会(校内委員会)③ 言語活動のアイデア集配布 |
| 10月 | CM委員会(校内委員会)④ |
| 11月 | 公開研究授業(地歴公民・保健体育・外国語) |
| 12月 | CM委員会(校内委員会)⑤ 拡大カリキュラム・マネジメント委員会 授業評価アンケート② |
| 1月 | 新学習指導要領にかかる教員ミニ研修 教員ワークショップ(新教育課程編成) |
| 2月 | CM委員会(校内委員会)⑥ 校内研究授業(国語・数学・理科) 年間指導計画(授業)の評価・改善 令和3年度入学生用シラバスの作成 |
| 3月 | 報告書の提出 |

実践校Ⅲ【兵庫県立尼崎稲園高等学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（めざす児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

【尼崎稲園高等学校の取組内容まとめ】

- ① 先進校を視察することにより、本校に不足している部分や参考にして取り入れていきたいことなどを明らかにした。
- ② 各教科を代表する若手教員で構成する授業改善検討委員会を立ち上げ、研究を積み重ね、全教員に ICT 機器を用いた効果的な授業を提案する。また、評価方法にも着手し、改善を図っている。
- ③ 各教科を代表する中堅教員で構成するグランドデザイン作成委員会を立ち上げ、本校が育てたい資質・能力を9つのキーワードで表すことを研究し、グランドデザインを作成した。
- ④ 各種研修、研究授業に参加し、貪欲に情報を収集した。それらを、学校全体で情報共有し、各授業に反映できるよう授業改善を進めた。
- ⑤ 1年次生を対象に「知の総合化」ファイルを作成させた。日々の授業の中で、また生活の中で学んだこと、感じたこと、疑問点などをスピーディーにメモすることにより、思考を言語化し、整理することができ始めている。
- ⑥ グループウェア上で各教科・科目の小テスト・課題を見える化して、生徒の負担軽減を図り、学力向上に繋げている。

本校では、高等学校における現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成について、大学等への進学後、より専門的な学びを進める中で、その際に求められる現代的な諸課題への多面的な物の見方、考え方、すなわち「知の総合化」をキーワードに「自己の学びのカリキュラム・マネジメント」を育成するための手法等を研究した。また、兵庫教育情報ネットワーク上に「知の総合資料室」（仮称）を作りデータベース化し、県下全ての教員が情報にアクセスできる体制を構想している。

本校は、全日制普通科単位制高校として、学年制とは異なる柔軟な教育課程を編成し、生徒の進路希望に応じた多様な選択科目を設置している。また、在学生の多くは大学進学を希望しており、卒業生の多くは高度な専門知識を学ぶため大阪大学、神戸大学をはじめとする国公立大学や難関私立大学へ進学している。

生徒は勤勉であるが、自ら進んで課題を解決する能力や姿勢はやや乏しい。また、障壁等と対峙する際に自己肯定感に欠ける生徒の存在も見受けられる。保護者は比較的教育熱心で、学校教育にも協力的であり、教育活動をスムーズに行うことができる。教員の年齢層は比較的高く、ベテラン教員が多いため専門学科を設置する高等学校と比較して探究的な学びについての取組が十分でなく、今後の高大接続改革を見据えて教科横断的な視点を持った教育内容の改善が喫緊の課題である。

教科横断的な視点における本校の取組として、

- ア グランドデザインの作成
- イ 課題・小テストの見える化
- ウ 知の総合化に向けた取組
- エ 授業改善への取組

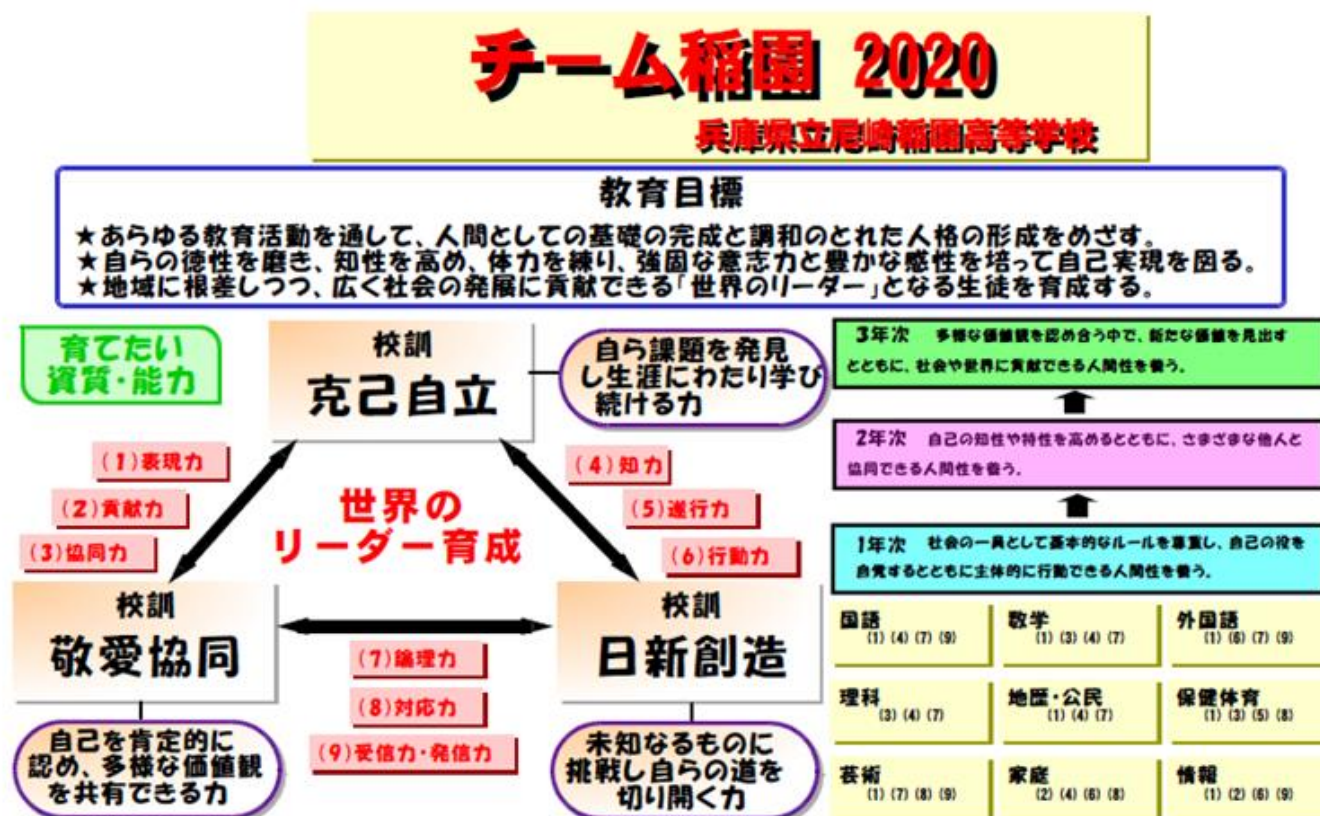
の4点をあげた。以下に詳述する。

ア グランドデザインの作成

本事業について全職員に共有してもらうため、甲南女子大学村川雅弘教授を招き、カリキュラム・マネジメントと知の総合化について、職員研修を実施した。

また、先進校4校（岩手県立盛岡第三高等学校、広島県立広島高等学校、奈良市立一条高等学校、東京都立日比谷高等学校）を訪問し、最先端の情報を収集し、グランドデザイン作成委員会を発足し、本校で育みたい「〇〇力」の案を作成し、教職員全員にアンケートを取り9つの育みたい力を決定した。各教科が9つの力のうちの力を育んでいくかを検討し、グランドデザインが完成した。

【尼崎稲園高等学校グランドデザイン】



イ 課題・小テストの見える化

課題・小テストの見える化については、①年次全体を含め他教科の先生が課題や小テストの内容を把握すること、②年次の戦略をもとに課題の量を調整したりする

ことを目的に、各教科の課題(範囲や提出日)や小テスト(範囲や実施日)を一覧にして年次黒板に掲示した。

ウ 「知の総合化」に向けた取組

甲南女子大学村川雅弘教授を招き、現代的な諸課題への多面的な見方、考え方、すなわち「知の総合化」をキーワードに、カリキュラム・マネジメントについての職員研修や生徒向け講演会を実施している。

1年次の総合的な探究の時間を利用して、各教科での学習、日常生活での気づきを付箋に書き込ませ、他教科とのつながりや身近な問題、また将来就きたい職業等へのつながりを意識させた。書き込んだ付箋は定期的に本校であらかじめ用意した項目や生徒本人が追加した項目ごとに整理させた。

生徒は、日常の学習や新聞、ニュースの中に気づきやつながりを発見するきっかけとなることに加え「気づき」を意識することで、知的好奇心、学習への意欲の向上へとつながることを期待している。

2年目となる令和2年度については、コロナ禍による臨時休業が続き、6月から学校が再開し、研究も再開した。7月には、村川教授に1年次生対象に講演会を開き、「知の総合化」を含め「コロナ禍をどう生きるか」についてご教示いただいた。また、夏季休業中の課題として1、2年次全員、3年次希望者対象に「コロナ禍で私が考えたこと」をテーマに作文を提出させた。委員会メンバーが全ての作文に目を通し、生徒の思いをくみ取ることとした。〔稲園資料11参照〕

その一部を紹介する。

【コロナ禍で私が考えたこと（抜粋）】

- 新型コロナウイルスによる外出自粛は、テレワークやネット授業を急速に普及させています。テレワークは、会社のオフィスがいらなくなる、通勤ラッシュがなくなる、子育てをしながら働きやすくなります。ネット授業では、学校に来られなくなった人も授業を受けられる、離島や過疎地に住んでいても平等に教育を受けられるようになります。しかし、一方向の授業は緊張感が得られず、正しく理解することや自己管理が難しいなど、まだまだ課題はたくさんあります。
- 私がコロナ禍の中で気づいたことは、一つの物事を多面的にみる大切さです。コロナ対策をしているつもりでも経済が悪化していたりなど、一つを解決しようと思うと様々な問題が後から転がってくることもあります。そうなると、解決することがすごく難しくなります。ですが、自分自身の力だけでなく、誰かに相談してみるとどうでしょうか。自分とは異なった価値観を持つ人から意見を聞くことで、物事を多面的にみることができ、自分では気づけなかった点により早く気づくことができるのではないのでしょうか。

12月初旬には、Googleクラスルームを用いて、「知の総合化ノート」に関する生徒へのアンケートを実施した。

以下の「知の総合化ノート」についてのアンケート項目について、

- ①情報の収集ならびに処理能力の修得
- ②自分の考えをまとめ、自己を見つめ自己理解につなげる
- ③自主性、積極性、忍耐力の修得
- ④課題を見つけ、処理し、解決する力の修得
- ⑤自分の進路について真剣に考え、今後のキャリアについての意識向上につながったか

という問いに、「当てはまる」「概ね当てはまる」と回答した生徒が、全体の6割程度を占めた。〔稲園資料2〕

この「知の総合化ノート」により、各生徒の思考・アイデアを言語化することで、次への学びにつながり、総合的な探究の時間が効果的な授業になっていることが窺え、教科授業担当者からも、「提出させた課題やノート、ワークノートなどに付箋が多く貼られており、よりよい解法に気がついた」「反省点、別解などがメモとして書かれている」との声を多く集めることができた。今後も継続して活用していきたい。

また、「知の総合化ノート」とは別に、今年度から持たせた「システム手帳」について質問したところ、約4割の生徒が「日常的に利用している」と回答した。コロナ禍による年度当初の臨時休業などで十分にガイダンスができなかった中で、高ポイントの回答になっている。「知の総合化ノート」の取組が、普段の生活に影響を与えている一例ではないかと分析している。令和3年度は、この「システム手帳」を全年次生徒に持たせ、年度当初にガイダンスを実施し、さらなる活用を促し、効果を上げたい。

また、令和元年度の1年次生とのアンケート結果比較をしてみた。〔稲園資料3、5〕

令和2年度の結果が上記の5項目で平均して36.3ポイント上昇した結果が得られた。これは、この事業が2年目となり、校内での事業内容が教員間でも生徒に対しても認知されていることを示している。

エ 授業改善への取組

教科横断的な視点に立つにあたり、授業改善委員会を立ち上げICT機器を用いた授業への研究を行っている。

コロナ禍のため生徒への学習支援に対する取組も積極的に行った。以下に取組の例をあげる。

- ・ 4月
休業中の課題や学習支援教材を本校WEBサイトから配信し、ネットコモンズを利用して質問等に応じた。
- ・ 5月
Googleクラスルームを利用した学習支援に移行
- ・ 6月
授業再開後もクラスルームを活用

- ・ 9月
授業改善委員による公開授業を実施（学びのイノベーションで導入された機器を利用）
- ・ 11月
公開授業週間・研究授業月間 「主体的・対話的で深い学び」に「ICT機器の活用」をテーマに含めて各教科が研究授業を行い、各教科におけるICT機器活用の可能性を研究
- ・ 12月
BYOD検討委員会を設置。令和4年度からの完全実施に向け、令和3年度から先行実施するため、スペック及び機種を選定、環境整備、運用規定等について検討を進めている。
- ・ 1月
BYOD検討委員会において、スペック及び機種がほぼ決定

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

本研究により、カリキュラム・マネジメントについての教員の意識は大きく変化している。また、「知の総合化」による生徒の付箋利用が活発化し、主体的に学びをすすめる姿勢が育まれつつある。

しかし、ICTの活用や授業改善については、教員間の取組姿勢に温度差がある。

そこで、ICT機器を活用した授業のさらなる活性化を図るため、兵庫県が令和4年度より実施するBYOD事業を1年先行実施し、全教員の意識向上を図りたい。

また、さらなる学校全体の取組を推進するため、校務分掌改組により、一層の連携強化を図り、学校改革を進めていきたい。

さらに、授業改善委員をはじめ教員が作成したICT教材をネットワーク上の共有フォルダに順次蓄積している。今後、各教員が一から教材を作成する手間が省けるなど教材研究の効率化につながると考えている。この取組を拡大していくことができれば、「知の総合資料室」として発展させることができると考えられる。

現在、各教科の学習評価について検討を始めている。観点別評価を行うことで授業改善（授業におけるPDCAサイクル）にもつながると考えるが、得点順に並べて評価する相対的な評価から脱却できない現状が見受けられる。

本校では評価平均の目標を7.0（現教務規定6.5）にする検討を行っている。本校の学習到達目標を平均7.0にする、すなわち正規分布にとらわれることなく、目標に達していない生徒に対し手厚く指導するとともに、指導の在り方を見直すきっかけにしたい。

観点別評価については、来年度から新学習指導要領へ向け、3観点での評価を試行することも決定した。現在、校務支援システムを活用した評価方法を各教科で確認している段階である。

このように、現在取り組んでいる活動を分析し、改善すべき箇所は改善し、進化し続けるカリキュラム・マネジメントの在り方を全教員で共有できるよう進めていきたい。

(4) 尼崎稲園高校における年間実施スケジュール

| 月 | 取組内容 |
|-----|--|
| 4月 | 臨時休業中の課題や学習支援教材を本校WEBサイトから配信、ネットコモンズを利用して質問等に応じた。 |
| 5月 | Googleクラスルームを活用した学習支援に移行 臨時休業期間中の生徒アンケート実施 スタディサプリ（リクルート）も家庭での学習支援教材として導入 |
| 6月 | 学校再開後もGoogleクラスルームを活用 |
| 7月 | 7/16 村川教授による1年次生対象「知の総合化ノート」講演会 県のカリキュラム・マネジメント検討会議 |
| 8月 | 夏休みに、「コロナ禍で私が考えたこと」と題する作文を課題とした。 |
| 9月 | 授業改善委員による公開授業を実施（学びのイノベーションで導入された機器を利用） |
| 10月 | |
| 11月 | 公開授業週間・研究授業月間「主体的・対話的で深い学び」に「ICT機器の活用」をテーマに含めて各教科が研究授業を行い、各教科におけるICT機器活用の可能性を研究 ICT機器を活用した授業研究会を実施（外部から26名来校） |
| 12月 | BYOD検討委員会発足 「知の総合化ノート」アンケート実施 |
| 1月 | BYOD検討委員会において、スペック及び機種が決定 初めての保護者アンケート並びに卒業生アンケート実施 |
| 2月 | 先進校視察（2校） 村川教授とのZoomによるカリキュラム・マネジメント委員会 「知の総合化アンケート」実施 |
| 3月 | 教員対象授業改善委員会の報告会 報告書の提出 |

3. 調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

- 実践校においては、学校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の共通理解を図りながら教職員一人一人の能力・適性をいかした学校運営に努め、教職員全員が協力して、機動的に対応できる組織を構築できた。
- 新型コロナウイルス感染症による臨時休業中及び学校再開後も、本事業での研究で培ったノウハウを生かして、柔軟に時間割を編成したり、動画配信等を工夫したりスピーディーに対応し、県下の高等学校の取組モデルとなった。
- 令和元年11月の「高等学校教育課程研究協議会総則部会」において、県立姫路北高等学校が事例発表を行った。
- 令和2年5月29日発行の『内外教育』に県立北条高等学の西川雅秀校長が「わたしの学校経営 カリキュラム・マネジメントを通じた学校づくり」を寄稿、甲南女子大学村川雅弘教授編著の『withコロナ時代の新しい学校づくり』（ぎょうせい）に「県教育委員会と県立高等学校における感染予防と学習保障の両立 ～カリキュラム・マネジメントの知見を生かす～」に本県の取組が掲載されるなど成果を発信した。
- カリキュラム・マネジメントの推進役であり、校内外の調整を行う研究主任（カリキュラムリーダー）の負担が大きい。
- 学校・家庭・地域が連携・協働した「地域とともにある学校」づくりの推進に大きな課題があり、外部評価を受ける体制が整えられていない。

改善方策

本県では従前より、生徒の実態や地域の実情等を踏まえ、各学校が設定する学校教育目標を実現するため、教科等横断的な視点で、教育内容を組織的に配列し、教育活動の質の向上に向けて、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立し、カリキュラム・マネジメントを実現することを各校に促しており、今回の研究成果を活用した全県の研修会や学校訪問指導等を引き続き実施していく。また、本県単独事業として令和3年度より始める「ひょうご学力向上研究事業」において、新学習指導要領が求める資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を研究する重点校を指定し、未来への道を切り拓く力を育成する魅力あるカリキュラムを開発することとしている。

また、カリキュラム・マネジメントは業務改善につながることを各校に伝え、カリキュラム・マネジメント推進体制確立のめに、カリキュラム全体を見渡すカリキュラムリーダーを明確に校内に位置づけ、管理職の適切な支援により全教職員からの信頼が得られる環境を整え、組織的にカリキュラム・マネジメントを推進することを各校に提案していきたい。

その上で、自校の特色を生かしたマネジメントを行い、学校評価とカリキュラム・マネジメントとを関連づけ、第三者評価や学校評議員の制度を活用し、求められる資質・能力とは何かを社会と共有、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視し、地域や社会に信頼される学校づくりをさらに推進していく。